

1. KINGO カレッジ

1) 学校(事業所)名: 福祉事業型専攻科 KINGO カレッジ	2) 所在地: 新潟市中央区上大川前通 7 番町 1169 新潟国際情報大学新潟中央キャンパス 5 階
3) 法人名: 株ノザワコーポレーション	4) 学校長(施設長)名: 久保田 健
5) 設置年度: 2019 年度	
6) 沿革 2016 年 9 月 知的障がい学生チャレンジ講座実行委員会設立 2017 年 8 月 新潟まちなか福祉型専攻科設立準備実行委員会発足 10 月 シンポジウム「高等部卒業後の学びと青春」開催 2018 年 1 月 KINGO カレッジ説明会開催 4 月 KINGO カレッジ準備室発足 7 月 新潟・高等部卒業後の学びについて考える連携協議会設立 11 月 高等部卒業後の学びについて考えるシンポジウム開催 2019 年 4 月 福祉事業型 KINGO カレッジ設立	
7) 設立の趣旨・目的 「社会に出る前にもう少し、ゆっくり学んでみたい」 「18 歳からの青春を、仲間とともに謳歌したい」 「さまざまな経験を通して「たくましく生きる力」をつけたい」 そんな願いをおもちの特別支援学校高等部新卒の方に、2 年間の「学び」の場を提供する、福祉事業型専攻科です。	
8) 2019 年度在籍者数 13 人	
9) 2019 年度活動プログラム(カリキュラム)と主な活動(授業)内容 「心のしくみ」「体のしくみ」「私たちの権利」「ひとりだち(調理活動など家庭生活に関する内容)」「企業と働く人々」「自然科学」「社会科学」「情報の活用」「英語」「コミュニケーション」「スポーツ活動」「フィジカルエクササイズ」「選択活動(美術、プログラミング、ニュースポーツ、音楽など)」「テーマ研究」「プロジェクトゼミ」「ホームルーム」「サークル活動」	
10) 特徴 新潟市の中心部に位置し、徒歩圏内にスーパー、コンビニ、商店街、カラオケ、銀行、郵便局、交番、公民館(図書館、体育館)、福祉会館(調理室)、映画館、美術館、歴史博物館などの地域資源があり、日常的に活用することができる。また、教室がある新潟国際情報大学や近隣の新潟青陵大学などの協力も得やすく、大学の地域貢献事業として出張講義をしていただく機会も多い。	
11) 課題 多様な学習ニーズをもつ学生への対応。職員の専門性の向上。進路先の開拓など。	

福祉型専攻科 KingoCollege (新潟市) 視察研修

2019年7月3日



この5階に KingoCollege はあります



活動の様子を見せてもらいました



視察研修報告書 (自立支援センターるっく 谷口幸子)	
視察日	2019 年 7 月 2 日 ~ 7 月 3 日
訪問先	福祉事業型専攻科 KINGO カレッジ
住所	新潟市中央区上大川前通 1169 番地 新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス5F
視察日程	7月2日 10:00 名古屋(小牧)空港 受付カウンター前集合 11:05 名古屋空港発 FDA 373 便(新潟行) 12:00 新潟空港着(新潟市内へ) 新潟の歴史と文化にふれる 18:00 宿泊先 ホテルイタリア軒 7月3日 10:00 KINGO カレッジ着 ↓ 視察研修 ※途中、昼食・休憩 15:00 KINGO カレッジ出発 16:00 新潟空港着 17:10 新潟空港発 FDA 374 便(名古屋行) 18:10 名古屋空港着(解散)
対応者	・久保田 健 氏 福祉事業型専攻科 学園長 ・齋藤 健志 氏 (株)ノザワコーポレーション 取締役副社長 ・長谷川 恵 氏 (株)ノザワコーポレーション ・貝沢 久美子氏 (株)ノザワコーポレーション
視察内容	・久保田校長及び齋藤氏より、お話を伺う。主に、齋藤氏からは、(株)ノザワコーポレーションが経営や運営面を管理し、KINGO カレッジが独立して運営していけるよう、将来的には地域と連携して、商業的なテーマパークを考えているとのこと。また、KINGO カレッジが開校するまでの経緯では、発起人が齋藤麻衣子夫人で、ダウン症の息子のため、8 年前に「できたらいいね…」と話したことから始まり、3 年ほど前から具体的設立準備が始まり、2019 年 4 月開校に至る。 ・新潟の KINGO カレッジと、愛知の見晴台学園大学、埼玉のシャロームが同時に行っている『コミュニケーション(遠隔講義)』の実際の授業現場を見学。2017 年の B1 グランプリの 1 位を予想する授業場面を見学。 ・13:00~、15 分程度であるが、生徒たちの一番参加率が良いと言われる、『フィジカルエクササイズ』を見学。前に集まっていなくても、同じ教室にいて、足や体でリズムをとり、一人ひとりがとても良い表情で体を動かしていた。 ・13:25~『ホームルーム』では、午前の講義で宿題となった、「通学方法を知りたい!」に取組み、それぞれがパソコン等を活用して調べていた。 ・久保田校長からは、青年期にこだわり、生徒募集に際して、特別支援学校の高等部3年の卒業生に限定し、ほぼ同学年の交流やボランティアではない他校との交流を大切に、共に学び共に生きる共生社会を目指している。まだ2年先のことはわからないが、高等部卒業後の2年間限定の学びの場にこだわる。
学ぶべき事柄	・不登校だった生徒が片道90分かけて登校したり、積極的に授業に参加してなくても同じ教室(空間)で過ごしている等、一人ひとり違った参加の仕方も多面的受け止める。 ・自立支援センターるっくの日中活動の『働く場』の中でも、フィジカルエクササイズのような社員みんなが生き生きとする活動や、その時々で旬な話題や内容を取り上げて、研修としての学びを意識的に取り組みたい。 “中小企業家同友会”“ショートタイムワーキング”“新潟パイロットクラブ”“みっばちネットワーク”
感想・その他	実際に現場を訪れないとわからない、雰囲気というか空気感が良かった。

視察研修報告書	
(大竹みちよ)	
視察日	2019年 7月2日 ~ 7月3日
訪問先	福祉型専攻科 KINGO カレッジ
住所	新潟県中央区上大川前通り7番町 1169 番地 新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス5F
視察日程	7月2日 新潟着 7月3日 10:00~ KING カレッジ運営について懇談 10:50~メディア論(遠隔講義)見学 12:00~昼食とりながら職員交流 13:00~フィジカルエクササイズ見学・午後の調べ学習 13:30~ KING カレッジの教育内容
対応者	野沢コーポレーション斎藤取締役 KING カレッジ久保田学長
視察内容	<p>KING カレッジは障害のある子どもたちが高等部卒業後、継続して学ぶ自立訓練を利用した福祉型専攻科である。準備開始から8年間を経て20109年4月に開校した。開校準備の中でNPO法人、財団法人、社会福祉法人などを検討したが株式会社での設置が一番早道とことから設置・運営管理は野沢コーポレーションが担っており、運営部門と教育部門が役割分担をしている。立ち上げから開校までの過程で地元企業の、中小企業家同友会、就労センター、教育のネットワーク等様々な団体がかわり、地域にある人的資源、社会資源の積極的活用が特徴の一つである。</p> <p>学生数は現在13名で、全員この春特別支援学校の卒業をした青年たちである。教室は広く、ゆったりした環境の中で午前のメディア論の講義、午後のエクササイズ、調べ学習を見せていただいた。どの講義も全員が参加しているわけではなく、別のテーブルでタブレットやスマホで情報検索など自分の興味のあることをしている学生、隣の部屋で休憩している学生もいて、強制された学びではなく本人の意欲を待つという姿勢が貫かれ、自由度の高さを感じた。</p>
学ぶべき事柄	<p>なんといっても地元企業をはじめ KING カレッジを支えるネットワークが大学の日々の取り組みだけでなく、学生たちの卒業後の就労支援や働く場所づくりまでカバーする仕組みが考えられていることに刺激を受けた。</p> <p>初年度入学の13名は全員が「働くことではなく学ぶことを希望した上での入学」とのことで、高等部卒業後継続して学ぶ場の必要性が高いことを再確認できた。とは言え、学生たちの学びのニーズは実に様々であるので、それをありのまま受け止めることが大事にされ、それを前提に教育が組み立てられているところに感銘を受け実践者としての原点があることを学ばせていただいた</p>
感想・その他	<p>2016年、全国専攻科(特別ニーズ)研究会で野沢コーポレーションの関係者のみなさんが新潟で専攻科づくりの活動を展開されていることを知った。その後新潟を訪問する機会があり、新潟から見晴台学園大学に足を運んでいただいて交流する機会もあったので名古屋の地から KING カレッジの開校を心待ちにしていた。今回カレッジを訪問できて大変有意義だったが、経営部門と教育部門の意思疎通や実践を進めていく上で必要と思われる職員会議がどのようにになっているかを聞き忘れたことに悔い残る。</p>

2. 医療法人 稲生会

視察研修報告書	
(池田 有希)	
視察日	2019年 8 月 10 日
訪問先	医療法人 稲生会
住所	札幌市手稲区前田 1 条12-357-2
視察日程	13:00~17:00 <ul style="list-style-type: none"> ・活動の場の見学 ・事業概略についての説明 ・意見交換
対応者	医療法人 稲生会 理事長 土畠 智幸さん 他
視察内容	<p>医療法人稲生会のみらいつくり大学の学生のディスカッションの場と一緒に参加させていただいた。今年度は2年目ということで初年度の「地域共生社会論」として講義を受けるのではなく、自分の興味のあることを研究することとでその意見交換をしていた。学び方についての考えを重度の障害をかかえた方が、ヘルパーの力を借りて、自分の意見を理路整然と述べていた。また、障害者の目線の研究では、医療関係者と障害当事者が研究を進めていた。他にも法人として難病や身体障害をかかえる方の自宅療養をささえるために、たくさんの方の事業(在宅療育支援診療所、訪問看護ステーション、地域生活支援、短期入所事業所、医療的ケアを必要とする子どもの相談支援)を運営しており、それについて教えていただいた。</p>
学ぶべき事柄	<p>重度の障害をかかえる方が高校を卒業する年齢に達すると、それまで学校で過ごしていた日中の時間を「生活介護」等の限られたサービスで過ごす。大学進学率が上がってきたにもかかわらず、障害者だけにその選択肢が提供されないのは、不平等である。高度な医療が必要でも、学びを深めることができるこのような学びの場で実際に当事者の方の話を聞き、学びたいという意欲を感じることができた。</p>
感想・その他	<p>重度の障害のある方が活躍できる社会の実現をめざしていかねければいけないと感じた。学校卒業後も学ぶ機会が失われることがないように、私たちは体制を整えていく必要がある。また、ゆっくりと学ぶ必要がある場合が多い。急がせるのではなく、特別支援学校高等部から先も学ぶ場が必要である。</p>

3. NPO 法人障がい児・者の学びを保障する会

<h2 style="margin: 0;">視察研修報告書</h2> <p style="margin: 0; text-align: right;">(山田 康太)</p>	
視察日	2019 年 8 月 23 日
訪問先	NPO 法人障がい児・者の学びを保障する会 「学び」の場 More Time ねりま
住所	東京都練馬区高松 2-15-18
視察日程	名古屋発-(東海道新幹線)-東京着-東京発-(JR 線)-池袋着-池袋発-(西武線)-大泉学園着-大泉学園発-「学び」の場 More Time ねりま着-活動見学、沿革・事業概略説明、意見交換(途中昼食・休憩)-練馬春日町発-(都営地下鉄線)-新宿着-新宿発-(JR 線)-東京着-東京発-(東海道新幹線)-名古屋着
対応者	大森梓(代表理事)、永田三枝子(理事)
視察内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動見学 ● 沿革・事業概略説明 ● 職員との意見交換 ● 質疑応答
学ぶべき事柄	<p>18 歳から 40 代まで幅広い年齢層の利用者が集まっている。なかには一般就労の経験がある利用者もあり、年齢・経験が異なる集団だが、それぞれに共通しているのは学びたい気持ちである。自分自身の言いたいことを言える雰囲気の中で、一人ひとりが伸び伸びと過ごしていて、ありのままの自分が受け止められる空間が利用者にとって居心地がいい場所になっているのが伝わってきた。また、地域との連携にも積極的に取り組まれており、人と人のかかわりが重要視されていた。こうした関係性を基礎に学びが積み重なっていくのだと感じた。「自分くずし」「自分づくり」に年齢は関係なく、ゆったりとした時間の中で失敗すること、仲間と過ごすことを経験し、自分らしさを磨き、豊かに生きていく力をつけていくことを確認できた。</p>
感想・その他	<p>特別支援学校を卒業したばかりの利用者もいれば、一般就労の経験のある利用者もいるが、利用者同士の関わり方を見て、年齢に関係なく、この場所で充実した時間を過ごしているのを感じた。</p>

4. 国立大学法人長崎大学医学部保健学科

1) 学校(事業所)名: 長崎大学医学部保健学科	2) 所在地: 長崎市坂本 1-7-1
3) 法人名: 国立大学法人長崎大学	4) 学長名:河野 茂 事業推進責任者:澤井照光(保健学科長)
5) 事業開始年度:平成 30 年度～	
6) 研究背景 ①厚生労働省(2017 年):「精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、地域包括ケアシステムの構築(ピアサポーターの養成を含む)を目指す」 ②WHO(2013 年):「精神障害のある人を対等な協力者とみなし共にケアに取り組むことを重視し、当事者のリカバリー、ピアサポーターの育成・支援、自殺予防などを推進」 ③ピアサポートみなと(2010 年長崎県大村市で活動開始、当事者、家族、ボランティア、学生、専門職等が共に語り合う活動):「障害の有無にかかわらず、誰もが悩みを抱える当事者」 ④リカバリーカレッジ(英国で 2009 年開設、日本では 2013 年東京に開設):「当事者と専門職等が共同創造(co-production)し、主体的な学びでリカバリーを目指す」	
7) 事業の趣旨・目的 精神・発達障害のある人の生涯学習活動の推進、①学校から社会への移行期における学習プログラム(移行 PG)の開発・実施、②生涯の各ライフステージにおける学習プログラム(生涯 PG)の開発・実施	
8) 2019 年度在籍者数:移行 PG9名(+支援者枠1名)、生涯 PG14 名(+支援者枠4名)	
9) 2019 年度活動プログラム(カリキュラム)と主な活動(授業)内容 ①移行 PG の開発・実施 目標:仲間と出会い、自分の特性を知る、内容:月 1 回計 5 回、日曜日、13:30-16:30、毎回ピアサポーターが参加【初回(ピアサポーターのリカバリーストーリー)、2 回(障害の心理教育)、3 回(コミュニケーション)、4 回(ストレス対処法)、5 回(自分の特性を伝える、修了式)】、特色:Discovery College を参考にプログラムを開発 ②生涯 PG の開発・実施 目標:夢や希望を持って生きる、内容:月 1 回計 5 回、日曜日、13:30-16:30、毎回ピアサポーターが参加【初回(ピアサポーターのリカバリーストーリー)、2 回(障害の心理教育)、3 回(WRAP 体験)、4 回(恋愛・結婚、当事者研究)、5 回(ストレス対処研究、修了式)】、特色:Recovery College を参考にプログラムを開発 ③フォーラムの開催:8/28(108 名)、10/12(71 名)、11/29(37 名)、1/26(52 名) ④遠隔教育教材の開発:DVD「リカバリー入門」(70 分)	
10) 特徴 事業の基本理念:①障害者当事者=障害を体験として知っている人、すでに様々な対処や工夫をしてきて貴重な情報を持っている人、“Expert by Experience(経験のある当事者専門家)”、②ピアサポーターと専門職が共同創造:「教える」→「ともに学ぶ」、「支える」→「ともに生きる」、③様々な気持ちの言語化及び主体的・対話的な学びの推進	
11) 課題 委託終了後の事業の継続	

視察研修報告書	
(牛丸基樹)	
視察日	2019年10月20日～月日
訪問先	長崎大学医学部保健学科
住所	長崎県長崎市坂本1丁目7-1
視察日程	10月19日(土) 前泊 10月20日(日) 13:30～16:30 見学、グループワークに参加 16:30～17:00 説明、質疑
対応者	田中悟郎先生(長崎大学医学部保健学科教授) ピアサポーター6名
視察内容	<p>「障害者の生涯学習活動への地域包括支援・学校から社会への移行期における学習プログラム」第3回 コミュニケーション を見学した。</p> <ol style="list-style-type: none"> コミュニケーションについての講義 田中悟郎先生から講義の形 ・コミュニケーションの要素 ・会話の始め方、続け方、終わり方 グループワーク 7～8人の3グループ。各グループには、ピアサポーターが2名入っている。 グループワークの進行もピアサポーターが行う。学部生、院生も1.2名参加 テーマは、「コミュニケーションで困っていること、工夫していること」 各自がポストイットに書き出してテーブルに広げた模造紙に張り出して順番に話していく進行。休憩を挟んで、他のグループの書き出したものを見に行き説明も受けることを行う。新しい視点が入り考えが広がる。(ワールドカフェのような第2ステージに近い) 全員が振り返りの感想を発言。 終了後に、田中悟郎先生とピアサポーターさんで説明と質疑
学ぶべき事柄	<ol style="list-style-type: none"> グループワークでのピアサポーターの力が大きいと感じた。 同じ障害があったり体験をしているなど共感性が高い。少し上の年齢ということでもあり安心感を持つことができる。 個人で参加してきているのではなくピアサポートグループの仲間だということも大きい。ただし、今後発展していくと別の風を入れる必要も出てくると思う。 学生が溶け込んでいる(学生と利用者の区別ができない)のがいい。 一つの職業訓練校から多数の参加者いた。そうした連携も大事だと感じた。
感想・その他	<p>コミュニケーションに課題を持つ人たちの集まりで、高いコミュニケーションが求められるグループワークがきちんと進行していったことに感動。(話し合いのルール、全員が発言、参加。他人の発言を遮らない。話を聞く。他人から学ぶなど) ピアサポーターが努力して頑張っている。利用者たちも3日目であり慣れてきたり学んできたこともあるかとは思いますが。それは、一定のレベルまでのスキルがある人が参加してきているとも言えないことはない。幅広い参加も必要ではあるが効果を上げるためには一定のスキルやニーズのよるグループ分けも必要かと思う。プログラムの設計や募集に当たって検討が必要と思う。 一方で、ピアサポーターさんが必要以上に気負ってるなど無理をしていないかは心配であったが、ピアグループ仲間なので大丈夫かと。</p>



視察研修

2019年10月20日

長崎大学医学部保健学科

「コミュニケーション」講義の
グループワークの様子

5. NPO 法人 CCV

1) 学校(事業所)名: CCV学園	2) 所在地: 栃木県鹿沼市鳥居跡町1420-11
3) 法人名: 特定非営利活動法人CCV	4) 学校長(施設長)名: 福田 由美
5) 設置年度:	
6) 沿革 2007. 4 フリースクール設立 2009. 7 NPO法人認可 2010. 4 就労継続B型事業所開設 2012. 4 生活介護事業所開設 2015. 4 グループホーム開設 2016. 4 就労移行支援事業所開設 2017. 4 鹿沼市学習支援事業受託 2018. 11 放課後等デイサービス事業所開設	
7) 設立の趣旨・目的 代表者が小中学校の教員をしていた時に不登校、引きこもり、発達障害への個別の支援の必要性を感じ、保護者と共に準備会を作り、地域の居場所を自宅に設定する。 その後、NPO法人格を取得し、個々のニーズに応じた支援を充実させるためフリースクールと障害福祉サービスに分けて専門性を生かした取り組みを行う。地域企業と連携し協働推進を行っている。	
8) 2019 年度在籍者数 フリースクール在籍者15名 学習支援105名 福祉事業所 60名	
9) 2019 年度活動プログラム(カリキュラム)と主な活動(授業)内容 学習支援 ソーシャルスキルトレーニング 農業 就労支援事業 運転免許取得支援 生活支援(宿泊活動) 余暇支援(遠足 スポーツ観戦 ゲーム大会) イベント出店 保護者会 カウンセリング こども食堂ネットワーク 若者の居場所事業	
10) 特徴 鹿沼市サポートセンターから依頼があり、高校中退者などに学びと就労準備訓練を提供している。家庭の教育力不足、貧困など地域の課題を解決するためにこども食堂と協力して居場所づくりをしている。高齢者施設や企業と協働し就労支援をしている。発達障害者の運転免許取得を支援する教習所と協働して全国に発信している。	
11) 課題 サポートセンターから依頼される15歳以上の青少年の対応に必要な情報取得をしたいが、義務教育時の情報共有が図れていない。 子ども若者の緊急避難の場所が十分ではない。困窮家庭への送迎の仕組みができていない。	

視察研修報告書	
(川上雅也)	
視察日	令和1年11月6日(水)～7日(木)
訪問先	特定非営利活動法人 CCV
住所	栃木県鹿沼市鳥居跡町 1420-11
視察日程	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県⇒栃木県 ・「特定非営利活動法人 CCV」着 ①自己紹介と所長からの事業所の説明 ②作業・事業内容などの見学 ③「特定非営利活動法人 CCV」の理念と具体的なプログラムの説明と意見交換
対応者	特定非営利活動法人 CCV 理事長 福田由美氏
視察内容	<p><u>代表からの説明</u></p> <p>CCV福祉・・・福祉は福祉の中で完結するのではなく、地域社会のそれぞれの分野と連携しながら共生し、「障がい」を感じることなく生活できる社会を目指します。</p> <p>一人一人をありのまま受け止め、働くことを通して成功体験を積み重ね「地域で生きる力」を育てます。</p> <p>CCV教育・・・発達障がい、不登校等、集団でのやりにくさがある子どもの認知特性に応じた指導。子どもの興味関心や特性を生かし、本来持っている力が出せるように導きます。</p> <p>あおぞら支援という事業では、「運転免許取得支援」を地元の自動車学校と連携している。</p> <p><u>現場を視察</u></p> <p>ライフステージ全体を通じた一貫した支援体制では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児期:「こども発達センターさくら」(児童発達支援事業・放課後等児童デイサービス事業) ②学齢期:「CCV学園」(フリースクール) ③成人期:「CCVトランジションセンター」(就労移行支援事業)、「CCVウェルフェア」(就労継続支援B型事業)、「CCVダック」(生活介護事業、自立訓練(生活訓練)事業、日中一時支援事業) ④生活困窮(子どもの貧困対策事業):こども食堂や子どもの学習支援事業

<p>学ぶべき事柄</p>	<p>「必要なものは創る」というバイタリティー。</p> <p>特定のライフステージのみに視点を当てた細切れの支援ではなく、乳幼児期から成人期までの全ライフステージを通じた一貫した支援の流れを構築することを最大の目標にした事業展開。</p> <p>『みんなちがってみんないい』を合言葉に、障がいのあるなしにかかわらず、そしてどんな障がいであっても、ありのままを受け止め、いつも相手の立場に立つ支援。どんな支援があれば共に働き、生活していけるのかを工夫する。それぞれの得意分野を活かして一緒に生きていくということ。支援員一人一人がみな同じ支援が出来る体制・組織づくりや、研修に力を入れていること等々学べる面が多かった。</p>
<p>感想・その他</p>	<p>障がいのあるなしにかかわらず、共に生き共に働き共に暮らすビレッジを目指して「クリエイティブコミュニケーションビレッジ(CCV)」と法人名をつけたという理念の説明を受けた通りのものであった。</p> <p>制度の谷間に落ちてしまいがちな、手帳を持っていない発達障がいの方々へのアプローチなど常に「当事者の目線」を持って取り組む姿勢には学ぶべき点が多かった。</p> <p>しかし、栃木県鹿沼市の中では福祉の分野で重要な協議体である「自立支援協議会」が動いて無いようで、CCVに関わった方は支援を受け「幸せ」となっていくであろうが、鹿沼市全体での取り組みに発展・展開してないことは気になった。この点についてお聞きすると「愛知県の地域福祉の取り組みに学びたいです」と言われた。</p>

6. ユーススコラ鹿児島

1) 学校(事業所)名:ユーススコラ鹿児島	2) 所在地:鹿児島県鹿児島市吉野町4386-1
3) 法人名:社会福祉法人麦の芽福祉会	4) 学校長(施設長)名:米衛 政光
5) 設置年度:2017年度	
6) 沿革 2015年11月 「鹿児島に専攻科をつくる会」結成 2017年 4月 「ユーススコラ鹿児島」開校(生活介護事業・自立訓練(生活訓練事業)活用開始) 2019年 4月 就労移行支援事業活用開始	
7) 設立の趣旨・目的 「鹿児島に専攻科をつくる会」を中心に、「どんな障がいがあっても高等部教育で終わらせることなく、教育年限を延長してもっと学ばせたい!」「もっと自分さがしや友達とのかわりを通して失敗したり、悩んだりしながら青年期を豊かに膨らませてやりたい!」「きょうだいと同じように専門学校・短大・大学に通わせたい!」という願いを福祉事業化して開校した。 めざす青年像として1)好きなこと、やりたいことがいっぱいあって、いろんなことにチャレンジしていく青年、2)自分で選択・決定し、自分らしさを追い求めていく青年、3)他に対する信頼とともに、自分に対する肯定感をもっている青年 を掲げている。	
8) 2019年度在籍者数 35人	
9) 2019年度活動プログラム(カリキュラム)と主な活動(授業)内容 三つのコースごとに週時程をつくっている。 ライフプランニングコース(生活介護)では、からだづくり、芸術、衣食住、マナー・社会体験、調理、コミュニケーション・経済・情報、しごと選択、余暇活動等の授業をしている。 セルフマネジメントコース(自立訓練)及びワークチャレンジコース(就労移行支援)では、スポーツ・健康、芸術、マナー・社会体験、調理、コミュニケーション・経済・情報、社会・自然、ワーク選択、テーマ研究(研究ゼミ)余暇活動等の授業をしている。 しごと選択(ワーク選択)での窯業、農業、クラフトの授業や、特別講師による調理・ダンス・音感教育・ジャンベの授業には、多くの学生が関心をもって参加している。	
10) 特徴 ① 障がいのある青年の“自分づくり”に焦点化した4年間の青年期教育の保障 ② 生活介護、自立訓練(生活訓練)、就労移行支援事業を活用したことによる、様々な発達レベルにある青年たちの受け入れ ③ 特別講師活用等による青年期を謳歌する文化の保障	
11) 課題 ① 福祉事業による取り組みのため、体育館・運動場・プール等の未整備及び教員免許をもった人材確保の困難 ② 上記の課題解決のために、将来的には、私立特別支援学校を設置(学校法人化)を構想しているが、当法人でまだ財務的見通しがついていない。	



視察研修 2019年12月4,5日
社会福祉法人麦の芽福祉会
ユーススコラ



桜島を望む広大な敷地に充実した学習環境が整えられ、青年たちがゆっくり自分を出し始めています



視察研修報告書	
(藪 一 之)	
視察日	2019年 12月 4日 ～ 12月 5日
訪問先	社会福祉法人麦の芽福祉会 ユーススコラ鹿児島
住所	鹿児島県吉野町 4386-1
視察日程	12/4(水) 7:30 中部国際空港発-9:00 鹿児島空港着-バス・車-9:40 ユーススコラ着-施設説明・見学-昼食-授業見学(13:30～14:30)-法人事業所の見学(15:00～16:30) 12/5(木) 10:15 授業見学-11:15-昼食-20:45 鹿児島空港発-22:00 中部国際空港着
対応者	米衛政光(学園長)
視察内容	一日目(12/4) ・麦の芽福祉会、ユーススコラ概略説明 ・授業見学(PC を使ったの修学旅行のお土産調べ) ・法人内他事業所の見学(放課後デイサービス、保育園・療育施設等) 二日目(12/5) ・授業見学(しごと選択 農業・窯業・クラフト)
学べき事柄	地域に根差した福祉事業が幅広く展開されてきた土壌と、法人の整備計画で私学特別支援学校設立や青年期の学びの必要性が確認されてきた背景があって、「鹿児島に専攻科をつくる会」の運動・要求に即座に応え建物を新築しての開校も実現できたのだと感じた。私自身、どうしても「福祉」を制度面から捉えがちなので、生活者の幸福追求というシンプルな理念を裾野の広い活動で実現していく麦の芽福祉会の「福祉生協」システムは新鮮に感じられた。実践レポートと授業場面からは学生(青年)の小さな変化に丁寧に寄り添う姿勢が感じられ、共感できるものだった。初めての修学旅行を目前に PC を使って名産品やお土産を調べる事前学習は旅行への楽しみや目的意識を広げ、学生が旅行に主体的に参加する意欲を引き出していた。先行している他の専攻科が掲げる魅力的なフレーズを手本にスタートしたユーススコラだが、来年度卒業生を送り出したタイミングで彼らの育ちや学びからユーススコラ自身の言葉で青年期の学びの意味がどう発信されるのか期待したい。
感想・その他	特別支援学校化も視野に入れて整備された施設(校舎)と周囲の環境も素晴らしかった。

IV 成果報告

成果報告① 第16回全国専攻科(特別ニーズ教育)研究集会 in 奈良での報告

2019年12月8日に行われた全専研第16回大会の第5分科会「青年達が語り合う分科会」に見晴台学園高等部専攻科、見晴台学園大学の学生5名が参加し、生涯学習セミナー(この時点では第三回まで)と大学連携オープンカレッジの取組みについて報告した。

第16回全国専攻科(特別ニーズ教育)研究集会 in なら

日程:2019年12月7日(土)・8日(日) 第5分科会 青年達が語り合う分科会

司会 藪 一之(愛知 見晴台学園)、共同研究者 高橋正教(愛知 元至学館大学)

報告1 「専攻科 NEXT で学んだこと」三重 特別支援学校聖母の家学園専攻科 NEXT

報告2 「若葉高等学校専攻科で学んだこと」群馬 若葉高等学校専攻科

報告3 『「生涯学習セミナー」と「大学連携オープンカレッジ」を通して』

愛知 見晴台学園専攻科、見晴台学園大専攻科

報告4 「組紐について」大阪 やしま学園高等専修学校専攻科

報告5 「僕の趣味について」和歌山 福祉型専攻科きのかわシャイン修了生

報告者の感想

- ・「ぼくは第5分科会に参加しました。全部で5つの発表を聞きました。みんな上手に発表してくれました。もちろん自分たちも発表しました。みんなの発表が聞いて楽しかったです。自分たちも練習どおり発表できてよかったです。」
- ・「それぞれの学校などでやっていることが全然違うんだなと思いました。」
- ・「マイクがなかったので聞こえる声で読めるか緊張しました。」



【資料:第16回全国専攻科(特別ニーズ教育)研究集会まとめ報告集「第5分科会のまとめ」より】

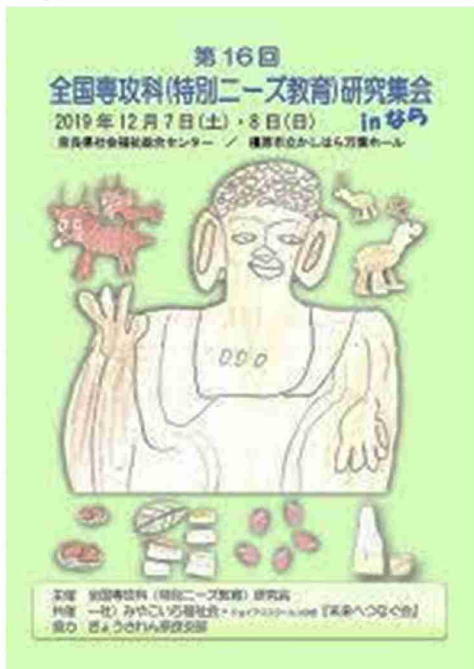
この分科会では青年自身による5本の発表がありました。分科会のコンセプトとしては青年たちが自由に、自分らしく語り合うというゆるーい雰囲気の分科会をイメージしましたが、今回はいずれもしっかり準備された大変聞きごたえのある発表ぞろいでした。内容はもちろんですが、堂々とした発表や質問への受け答えの様子から彼らが青年期の学びで培った力がいかに大きいものであるかを感じ取れました。

発表の内容を個々に記して論評することはこの分科会の趣旨とは違うように思うので控えますが、司会を務めながら素敵だなと感じたことを二点紹介させていただきます。

一つは、青年たちが専攻科など青年期の学びを経て自分と一緒に学んだ友だちが変わったことを、事実を踏まえて客観的に語ることのできる素晴らしさです。この原稿は年が明けて箱根駅伝を観たあとに書いていますが、何か大きな大会で好成绩をおさめたとか、くさらずに一生懸命やり続けてよかったという経験を持った人が語るのと同種の自分の学びへの手ごたえを、彼らは専攻科や大学の日常の学びから得ているのです。

もう一つは自分が好きなこと、夢中になっていることを正直に伝えることで共感を得ていく姿の誇らしさです。全専研に参加している各地の専攻科には「テーマ研究」、「研究ゼミ」等、呼び名は様々ですが、興味関心のある事柄をテーマにレポートや作品をまとめ発表する取り組みが広く定着しています。一見テーマを研究しているように見えて実はそのことが好きな自分自身を深く探究していく点にこの課題が青年期に必要な学びとして定着している理由があると私なりに思っていますが、今回の発表でも組織に夢中だったり、写真が趣味だという話に会場の参加者はみな夢中になって共感しました。それは自分が好きなことを楽しそうに語る姿に魅力や憧れを感じるからであり、共感を受けた人は話してよかった、認められて嬉しいとより自己肯定感を太らせることになるのです。

最後に分科会を締めくくった共同研究者の高橋先生のメッセージを紹介してまとめに代えたいと思います。「やりたいことを見つけて自由に伸び伸びとやっていくこと、いろんな人とつながり取り組んでいくこと、一般の大学生に比べてもみなさんは周りの人に支えられながらそれができています。自信を持ってこれからも取り組みを広げていってください。」(第5分科会司会 見晴台学園 藪 一之)



奈良の障害青年たちによるデザインの大会、パンフレット(左)と、第5分科会で高等部卒業後の年齢の青年たちが専攻科などでの自分たちの学びを生き活きと報告する様子(右)



成果報告② 成果報告会(2020年2月15日愛知県立大学サテライトキャンパス)

参加者:「生涯学習セミナー」「大学連携オープンカレッジ」参加の障害青年16名、
コーディネーター、連携協議会委員6名、学生ボランティア8名、法人関係者4名、
事務局3名、フォーラム事務局関係4名

内容:

本事業は、昨年度から継続して企画提案の段階から「成果等の普及」も学習プログラムの一端と位置づけ、学習者である障害青年自身が学びを通して得られた成果を自らの言葉で発信し他者からの評価を受けることで自信の獲得、さらなる学習意欲の増進につなげることを掲げてきた。その一回目が前述した第16回全国専攻科(特別ニーズ教育)研究集会での報告であり、二回目が本稿の成果報告会である。

当日は午後から第4回の連携協議会を開催することとし、日程を合わせて連携協議会委員にも参加を募った。また、生涯学習セミナーのチューターとしてボランティア参加した大学院生や大学連携オープンカレッジに参加した大学生にも呼びかけ、受講した障害青年と一緒に報告する形をとった。

報告は生涯学習セミナーと大学連携オープンカレッジ、視察研修、そしてコンファレンス事業として取り組んだフォーラムについて、青年たちのほか担当した連携協議会委員、フォーラム事務局のメンバーが資料とパワーポイントを用いて行った。

報告内容の詳細については本報告書の各取組みの頁と重複するのでここでは省くこととするが、成果報告会全般から二年目の成果として印象に残ったことを三点挙げておきたい。

1. 参加青年の広がりや学びへの手ごたえ

成果報告会には生涯学習セミナー実行委員を担った障害青年も参加し、それぞれの役割やセミナーで学んだ感想を述べた。現在、福祉サービス事業所で働く特別支援学校高等部卒業間もない青年から「学校時代も勉強が好きだった。私はこれからもっと学びたい」という発言があった。事業所での仕事や訓練に加え、改めて学ぶという活動を体験した手ごたえを聞き、本事業が目指している学習活動の意義を参加者が実感できたのではないだろうか。

2. 大学生ボランティアの育成

昨年度の成果報告会と比較して大学生(院生を含む)ボランティアの参加が増え、彼らの発言から障害青年を支援する立場にいる彼ら自身もまさしく移行期の青年であることを強く感じた。彼らはボランティアとして障害青年に関わる経験を通してそれぞれが自身の課題に向き合い、成長していきたいと考えている。私たちが開発する学習プログラムは障害青年の学習要求に応えるものであることは言うまでもないが、支援する側にいる大学生や私たちにも貴重な学びを提供できるような、まさしく共生社会の学習でなければならないと感じた。

3. 実践研究としての進展

生涯学習セミナーや大学連携オープンカレッジの企画運営、コンファレンス事業として取り組んだフォーラムに連携協議会委員全員が役割を担って関わったことで、共同の実践を踏まえての専門の見地を活かした課題の検討がさらに進むようになり、成果報告会としても充実した内容となった。



【資料:成果報告会配布資料より】

本日のプログラム	
10:30	<p>開会 主催者あいさつ…宮原とき子 (NPO) 法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会理事長)</p>
10:35	<p>生涯学習セミナー報告…セミナー実行委員会事務局 セミナー実行委員 名古屋大学 犬山市福祉課</p>
11:00	<p>大学連携オープンカンパレッジ報告… 鳥崎台学園・鳥崎台学園高等学校 星城大学 東海学院大学</p>
11:30	<p>視察研修報告…田中良三 (本事業コーディネーター)</p>
11:50	<p>コンファレンス事業 「障害者の学びの場づくりフォーラム in 東海・北陸」 …フォーラム事務局</p>
12:20	<p>まとめと来年度に向けて…田中良三 (本事業コーディネーター)</p>



【文部科学省委託事業】 令和元年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する基礎研究事業
 「生涯の学びとしての、障害青年の『学校から社会への移行期』における継続教育の役割と課題」

**《学校卒業後の学びを求めて
 ～2019年度成果報告会～》**

2020年2月15日 10:30～12:30
 於：ウイングあいち 愛知県立大学サテライトキャンパス

NPO 法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会

ホップ・ステップ……！（委託事業2年目）

見晴台学園大学校長
文科省・実践研究委託事業・コーディネーター
田中 良三

見晴台学園は1990年4月に開設され今年で31年目、また、見晴台学園大学校は2013年10月に創設され現在で6年半になります。

学園・大学校の長年にわたる歩みの中でも、昨年度（2018年度）と今年度（2019年度）は、学園・大学校の今後に関わる画期的な年でした。

それは、文部科学省が着手した「障害者の学校卒業後の学び支援」政策との関わりです。

一つは、文科省のこの政策の最も大きな特徴ですが、「学校から社会への移行期」に着目したことに関係しています。これは、全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会が取り組んでいる「福祉（事業）型専攻科」実践を念頭に置いたものです。「福祉（事業）型専攻科」とは、後期中等教育の高等部本科3年間に年限延長としてプラス専攻科2～4年の設置を目標とする運動の中で、学校の代替措置として、障害者総合支援法による自立訓練事業や就労移行支援事業、生活介護事業を活用する取り組みのことで、文科省の障害者生涯学習支援政策では、「福祉（事業）型専攻科」は、学校教育ではなく、また障害者福祉でもなく、新たな生涯学習の取り組みとして位置づけられています。専攻科設置を目指す実践形態の一つである「福祉（事業）型専攻科」は、生涯学習の主役として新たな光が当てられました。ここでは、全国の専攻科づくり実践を牽引してきた見晴台学園・大学校は、「障害者の多様な学習活動を総合的に支援する実践研究」として評価され、これまでの制度外の学校（フリースクール）というアウトサイダーから、障害者生涯学習の「学校から社会への移行期」に取り組む実践主体として表舞台に登場することになりました。

二つめは、この成果報告会に関わることです。文科省は、2018年度、新たな政策として「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」（2018年度予算1億6百万円・2019年度予算1億5百万円・2020年度予算案1億16百万円）を始めました。ここでは、「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業が中心です。実践研究は公募され、全国から21カ所（2018年度18カ所）の団体等が選ばれました。私たちの事業名は「生涯の学びとしての、障害青年の『学校から社会への移行期』における継続教育の役割と課題」です。私たちは昨年度に引き続き選ばれました。そして、生涯学習セミナー、大学連携オープンカレッジ、視察研修、フォーラムの4つの事業に取り組みました。その成果を広く公にすることになっていますが、これらの事業の評価の主体はあくまで当事者です。

三つめは、2013年3月に文部科学省・障害者の学びに関する有識者会議（私もその一員）のまとめ『報告』が出されました。ここでは、知的障害者の大学への受け入れにも言及しています。見晴台学園大学校の先駆的取り組みが、わが国の大学改革を推進する実践研究として期待されていると見ることができます。

私たちを取り巻く社会はひと時も休むことなく、そして急激な変化を続けています。私たちは、これらの動きをたえず冷静に客観的に捉えながら、これからも引き続き、障害者の生涯学習のバイオニアとして、多くみなさんとともに連携・協働して取り組んでいきたいと思っております。

令和元年度文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を支援する実践研究」

全ての学び続けたい人たちのための

『生涯学習セミナー2019』

の成果報告

生涯学習セミナー実行委員会

1

<実行委員会開催日と主な議題>

第1回 2019年6月17日 自己紹介、今年度のセミナーについて
 第2回 2019年7月22日 セミナーの開催時期について
 第3回 2019年8月9日 第1回セミナーについて
 第4回 2019年9月18日 第1回セミナーのまとめ、第3回セミナーに向けて
 第5回 2019年11月13日 第2回セミナーについて、第3回セミナーに向けて
 第6回 2019年12月13日 第2、3回セミナーまとめ、第4回セミナーに向けて
 第7回 2020年1月20日 第4回セミナーについて
 第8回 2020年2月17日 第4回セミナーのまとめ

会場:見晴台学園
15:30~17:00

5

学校卒業後の障害青年たちの主体的な学習意欲を引き出すことを
 ねらいにこの学習プログラムは行なわれた。

目指したのは

「当事者による
 当事者のための
 生涯学習セミナー」

2

<実行委員会内の役割分担と青年たちが担った内容>

実行委員長…実行委員会の司会、当日セミナーでの挨拶
 副実行委員長
 事務・総務係
 広報・宣伝係…チラシの作成、アンケート用紙の作成、
 当日の記録(カメラ)
 会場係…会場作り、会場誘導係、名簿や名札の作成準備
 運営係…新聞紙での防災グッズ作りのデモンストレーション、
 カロリング大会の景品準備、ワークシートの作成(下見)
 河台純一さんへの事前アンケートの作成、当日の受付

6

青年たちを含めた「セミナー実行委員会」を発足


- ・見晴台学園高等部専攻科生2名+教員1名
- ・見晴台学園高等学校学生5名+教員1名
- ・るっく〜あるて社員2名+職員1名
 (自立支援センターるっく 就労移行支援事業所利用者・高等職業学校卒業生)
- ・すすめる会理事5名
 (コーディネーター・次学校職員・大学校教員・学園教員・るっく職員)
- ・名古屋大学 大学院生2名+教授1名
 (社会教育・生涯学習研究室)

20名で構成

3

第1回「防災」～みんなで一緒に生きのびよう！～


日時:2019年8月28日(水) 13:00~16:00
 会場:名古屋運送会館 2号 第1会議室
 講師:近藤 ひろ子さん(名古屋市消防センター 防災教育アドバイザー)
 (独立行政法人国際協力機構 防災教育担当 専門家)
 参加人数:79名(当事者58名)



講義の様子 新聞紙で防災グッズ作り グループワークの発表

7

2019年度は
4回開催



延べ参加人数 317名
 内当事者 227名

大切にしたいこと

- ・生涯学び続けること
- ・本人の思いを軸に
- ・育ち合える場として

テーマ

- ・スポーツ
- ・学び
- ・文化

4

<参加者の声> 感想&アンケート より

「気にはいりたくて防災が自分にとって、だいじだと思った。」
 「防災は『明るく楽しく元氣よく』がよかった。」
 「なにもよいしてないから、はやくよいして、そなえたいとおもった。」
 「スリッパを作るのが大変だったけど、来てよかった。」
 「きょうからすこしずつぼうさいのことかんがえます。」

8

第2回「カローリング大会」

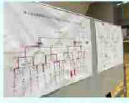
日時:2019年11月20日(水) 10:00～15:00
会場:豊橋スポーツセンター
参加人数:98名(10チーム)
(当事者60名)



協会によるレクチャー



試合の様子



白熱したトーナメント

9

<参加者の声> 感想 & アンケート より

「何回も練習しましたが、優勝が出来なくてくやしかったです。15位でとても嬉しかったです。初めてのカローリング大会だったので少し難しかったです。」
(10代女性・就労移行支援事業所利用者・看護学校高等部卒業生)

「たくさんをなげました。よかったです。カローリングまたやりたいです。」
(10代女性・就労移行支援事業所利用者・看護学校高等部卒業生)

「みんなと一緒によかったです。みんなとまたやりたいです。カローリングがいいです。」
(20代男性・自立(生活)訓練事業所利用者・看護学校高等部卒業生)

10

第3回「河合純一さんに聞く ～夢追いかけて～」

日時:2019年12月1日(水) 13:30～15:50
会場:豊橋みずほ短期大学 別館1階 講義室
講師:河合 純一さん (文部科学省エス・エム・サポーター大使/パナソニック電器 企画マネージャー)
(日本/マクロビオス協会 会長)
(東京大学教育学部研究科付属JRI/作方ノ教育実践研究センター協同研究員)
(アジア/パナソニック委員会アジアー委員長 副委員長)

参加人数:84名(当事者61名)



実行委員長挨拶



河合純一さん



グループワークの様子

11

<参加者の声> 感想 & アンケート より

「このこうえんかいで僕はゆめやちくひょうにむかえてがんばるかんがえかたいきかたをしることができました。」
(20代)

「目が見えなくてもがんばれば夢がかなえられることがすごいと思いました。」
(10代)

「純一さんのお話を聞いて、自分は仲間を作ることは大事だと思いました。自分もやりたくないをしんをもってチャレンジをしていきたいと思います。」
(20代)

12

第4回「国宝 犬山城 歴史散策」出張セミナー

日時:2020年2月10日(月) 10:45～15:00
会場:犬山市役所 2階 205会議室、犬山城下町、国宝 犬山城
講師:野村 好哉さん(犬山市役所教育部歴史まちづくりの課)
参加人数:81名(当事者58名)



講演の様子



城内の見学



ワークシートと配布パンフレット

13



実行委員会で作成した「ワークシート(小冊子)」

14

<参加者の声> 感想 & アンケート より

「めっちゃくちゃたのしかった。」
(30代女性・一般企業で就労)

「犬山じょうは、はじめて行った。とてもよかった。〇〇さん(※参加した大学院生の名前)と今日ははなしができたことがうれしかった。ありがとう。」
(60代男性・生活介護事業所利用者)

「みんなと一緒によいよ、犬山城に行けたのよかった。」
(50代女性・就労継続B型事業所利用者)

15

<私たちの思い①>

(19歳女性・就労移行支援事業所利用者)

セミナーに参加してみてどうでしたか?
カローリングとか犬山とか楽しかった。
なかまたちがいると楽しかった。
自分も勉強になったと思いました。

実行委員をやってみてどうでしたか?
準備することがたいへんでした。
雨の中の下見がたいへんだった。
みんなでおしりを作っていたいへんだった。
でも、みんなが楽しんでくれてうれしかった。
とてもよかった。

16

<私たちの思い①>

(19歳女性・就労移行支援事業所利用者)

今までの学校の勉強と比べてみてどうでしたか？

小学校のときの勉強は好きだった。
中学校のときは、もう忘れてしまった。
高校のときは、仕事の練習をやっていた。
だからあまり好きな勉強はなかった。
セミナーは楽しかったし、学んでよかったと思った。

17

参加した青年たちの姿からみえること

生涯学習セミナーに参加した障害青年たちの姿からは、「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」「(学校卒業後も)学ぶ機会ができてよかった」「大学生や同世代の仲間とのコミュニケーションが楽しい」など、主体的な学習意欲が伝わってくる。
そのことから本セミナーを実施したことで、本学習プログラムを目指す「障害青年は①学校卒業後も「学ぶことが自分を豊かにする」ことを感じ取り、学習の主体者として積極的に生きていく力の獲得につながる。②学習要求を持つ障害青年の組織化により共に学ぶ仲間がいて、③多様な人(同世代、異年齢、健康者、外国人等)とのつながり、学習活動を通して共生社会の活動に参加する、等の学習成果」へつなげることができたと実行委員会では考えている。
そんな機会を保障していく上で「生涯学習セミナー」を継続して開催していく必要がある。

21

<私たちの思い②>

(19歳女性・就労移行支援事業所利用者)

セミナーに参加してみてどうでしたか？

自分の希望した防災を学べて一番よかったです。
地震の歴史が沢山学べました。これからも沢山のニュース情報で災害を沢山学びたいです。

実行委員をやってみてどうでしたか？

受付係をがんばりました。この経験がよかったです。
みんなで話し合ったら、シブリの歴史、川柳など沢山の意見がありました。その中で自分の意見の地震、防災についてセミナーができてうれしかったです。またやってみたいです。
次はシブリの歴史を学びたいです。

18

<様々な立場から>

出張セミナーでご協力をいただいた立場から

奥谷 雪江さん
(犬山市役所健康福祉部福祉課)
(連携協議会委員)

22

<私たちの思い②>

(19歳女性・就労移行支援事業所利用者)

今までの学校の勉強と比べてみてどうでしたか？

小学校とか中学校とか養護学校とかでは、沢山の授業をしていました。私は勉強が好きでした。
セミナーもがんばりました。楽しかったです。
私は、もっと学びたいです。

19

<様々な立場から>

実行委員として関わっていただいた立場から

竹井 沙織さん
(名古屋大学大学院生)

23

<私たちの思い③> (19歳女性・見晴台学園専攻科生)

生涯学習セミナーの実行委員長をやった感想

第1回目の生涯学習セミナーで担当決めをした時に自ら実行委員長に立候補しました。
2回目のセミナーから司会をやることになりました。みんなに意見を聞いて、授業後残って生涯学習セミナーの実行委員会を立ち上げました。全部で4回セミナーがありました。今回は、防災について学びました。地震や津波のことを学びました。2回目のセミナーは、カローリング大会をしました。実行委員長のあいさつをしたり、10からランキー一貫までの人たちにメダルをかけたりますことをやりました。3回目のセミナーは、先バランピック選手の高橋純一さんの話を聞きました。グループに分かれて話を聞きました。みんなと一緒にパラリンピックの話を聞けてよかったです。4回目は、大田原、森下町で開催でした。この日セグループに分かれて歌を聞きました。大田原に集まるボランティアを聞いた感じ、昼ご飯を食べて、グループごとに歌を聞かれました。その日は、雪が降っていて坂下町を断絶するのが大変でした。大田原にも上りました。階段が急でとても怖かったです。4回のセミナーを通して、大変なことや楽しいこといろいろありました。司会をするのは、すごく大変でしたが、みんなと協力して4回のセミナーを企画してきました。私にとってセミナーをやることは、すごく大変なことだけれど、参加してくれる人たちが楽しかったと思えるセミナーができたと思います。言葉で言葉を伝える事は、遠いところから大学の人が来て話ができるのでとても嬉しいです。みんなと楽しい企画が行われてよかったです。実際に実行委員長をやってみて、みんなに意見を聞いて、企画を考えたりするのは大変だけれど、とてもいい経験になりました。

20

<まとめにかえて>

実行委員として関わっていただいた立場から

辻 浩先生
(名古屋大学教授)

24

1

成果報告

令和元年生涯学習科学普及事業「陸奥省の多様な学習型立構を支援するための実践研究」
 『今年度の学びとしての、生涯学習の「学校から社会へ」の移行型「に於ける経験型立構の役割」に関する』

「大学連携オープンカレッジ」を通して

レポーター 泉谷駿介 丹下直範 藤坂詩音 八幡美也子

会場 ウイングあいち 愛知県立大学サテライトキャンパス
 2020年2月13日

3

大学連携オープンカレッジ2019

キーワードは 『紙ひこうき ▶』

子どもたちに
 紙ひこうきの作り方を教えたり、
 一緒に作って遊んだりする
 “キッズワークショップ”の
 開催が目玉企画でした!!

2

“大学連携オープンカレッジ”とは

生涯学習セミナーが「だれもが生涯学び続けられるように」との思いで行われているため様々な年齢・立場の人が集まって学んだのに対して、
 「大学連携オープンカレッジ」は、
青年たち が集まって学び合いました。

↓

高等部卒業後の障がいのある青年たち
 (見晴台学園の専攻科の生徒・見晴台学園大学の学生など...)

地元の大学 (今年はなんと8校も!) に通う学生

4

大学連携オープンカレッジ2019

講師はカナダ出身の
 アンドリユ・デューア先生
 東海学院大学教授、東海第一幼稚園園庫

紙ひこうきは空を飛び
 “本物のひこうき”

第1回 大学連携オープンカレッジ (2019.9.15)

障害青年の参加に加え、地域の大学に通う学生も参加し、大学連携オープンカレッジ開催の意味や今後の流れを確認しました。



1人ずつマイクをまわして自己紹介。
意気込みも語りました。



同会進行も学生たちで行いました。



折り紙を折るのが苦手でも、周りで助け合ったり、デュアー先生に教えてもらって上手に作ることができました。



完成したのはこの2つ。見たことがない形の紙ひこうきでした。翼が左右非対称なのによく飛ばぶから不思議！




最後にグループを決めて終了。今日はじめて会ったとは思えないほど紙ひこうき作りを通して仲良くなりました。




8

会場：豊和みずほ短期大学


自己紹介の後、デュアー先生が出演された「ワタシが日本に住む理由」という番組を見ました。



デュアー先生の紙ひこうきときの出会いや日本文学と文化を愛し日本で生活を送ることとなった経緯などを知りました。




折り紙を使った紙ひこうきを作るのができてよかった。紙ひこうき作りを通して仲良くなりました。




紙ひこうき作るの久しぶりだな～


子どもに戻ったみたいで夢中で飛ばしました。大人でも楽しいから、子どもたちを楽しませることができると確信！



第3回のワークショップが楽しみになりました。



最後にグループを決めて終了。今日はじめて会ったとは思えないほど紙ひこうき作りを通して仲良くなりました。



8

第2回 大学連携オープンカレッジ(2019.10.06)

今回のワークショップにむけて、折り紙ではなく厚紙を切り貼りして作る紙ひこうき作りを挑戦しました。

挑戦した
紙ひこうき



重心の位置が大切！
羽端に5円硬貨を入れるだけで安定して飛ぶから驚き。



テューア先生の紙ひこうきコレクションの一部。
挑戦したのは通称“てんとう虫”という紙ひこうきでした。
翼が丸くてもよく飛びました。

会場：豊和みずほ短期大学

11



上の方に向かって飛ばすと、高く、長く飛びました。



完成したら実際に飛ばしてみました。
「いっせーので！」のかけ声がいけるような場所から聞こえてきました。みんなで競争するのも楽しみの1つ。

10



折り紙よりも細かいパーツがあつて難しかったですが、グループ内で声をかけ合つて作りました。
自由にイラストが描けたので楽しかったです。



完成！

12



最後に、次回行われるメイン企画の「キッズワークショップ」について、役割分担や集合時間、持ち物などの確認をしました。
子どもたちにも「紙ひこうきを飛ばすのが楽しい！」思ってもらえるといいなと思いました。

第3回 大学連携オープンカンパニ(2019.11.16)

瑞穂児童館とタイアップし、23名の子どもたちと11名の保護者を含む、総勢65名の参加者が集まりました。

事前に手作りの模造箱を準備しました。子どもたちにも読めるようにフリガナを書いたりカラフルに色を塗ったりして工夫しました。

会場：瑞穂児童館 13

ゆっくりと話すように心がけました。
見本を見せながら説明するとすぐにわかってもらえてうれしかったです。

はじめは緊張したけど、学生さんのマネをしてみたりして、少しずつ小さい子と話せるようになっていきました。
紙ひこうき以外の話題でも話すことができて安心しました。

15

小さい子と話すのははじめて・・・
緊張したけど、まずは自己紹介をしました。

ワークショップが始まる前の会議の準備、受付などもちろろん、先生たちに頼らず、学生たちで声をかけ合いながら行いました。

14

ひこうきが完成したら、飛ばして遊びました。
前回までは、久しぶりの紙ひこうきづくりをして自分たちが楽しんだけど、今回は、小さい子たちが楽しそうに遊んでいるのを見て、うれしい気持ちになりました。

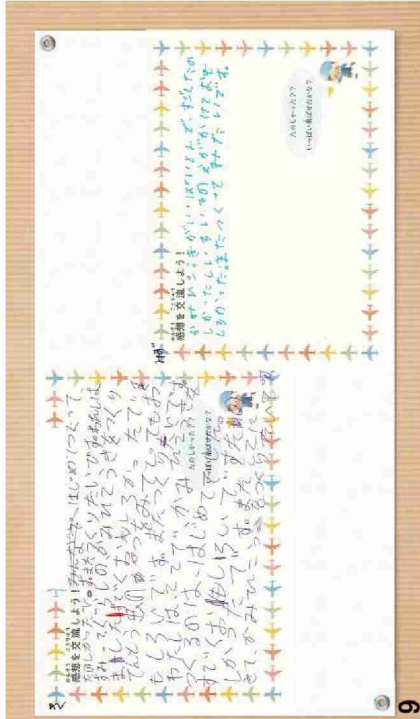
最後に感想を書いて、交流をしました。
「楽しかった」とか「また家でも作りたい」という意見が聞けてよかったです。

16



大人も子どもも笑顔になれて大成功でした！！

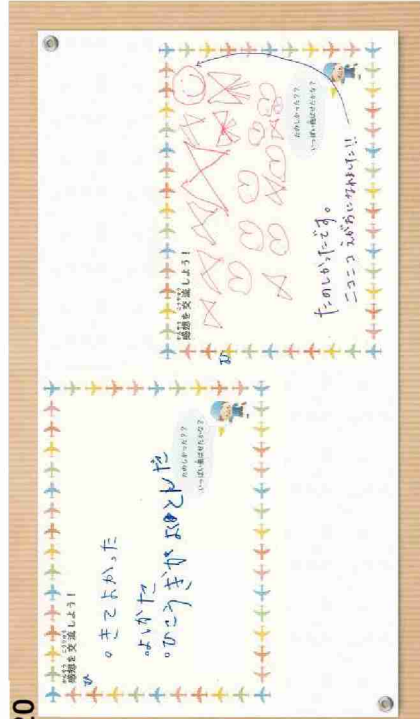
17



19



18



20

連携大学に通う学生の感想



他の大学のみならずと交流ができて、普段の学校の授業だけではできない経験をさせていただけました。キッズワークショップでは、人に教えることの難しさと同時に喜びを感じることができ、将来は教員になりたいので目標にむかってがんばろうと思えました。

紙ひこうきを通して、障がいの有無に関係なく他大学の学生と意見を交わしたり、協力したりしながら共に学ぶことができました。ワークショップの開催によって、地域への貢献、活動ができたことで大学連携オープンカレッジのもつ意味を再確認できました。



25

まとめ

みんなと楽しく紙ひこうきづくりができてうれしかったです。紙ひこうきを作るのは難しかったけど、普段なかなか交流ができて他の学校の人たちとも助け合うことができました。会場係や受付なども役割担当してがんばることができました。



27

感謝の交流のあと、紙ひこうきを作りました。毎回、作ってききましたが学生同士の距離が縮まり和気あいあいとした雰囲気の中、たのしく作ることができました。



26

普段は交流できない地元の大学に通う学生さんたちと一緒に取り組めてよかったです。ひこうきを飛ばすときは、自分も楽しくなって一緒に楽しい気持ちになれたのがうれしかったです。来年も大学連携オープンカレッジに参加したいです。



28



29

紙ひこうきの楽しさや飛びぶものの原理を知ることができてとてもよかったです。本当にテュア一先生に出会えてよかったです。キッズワークショップでは、僕が作った紙ひこうきを見て、「同じのが作りたい」と言ってくれる男の子がいました。すごくうれしくて、緊張したけど一生懸命教えることができました。

30



31

29

紙ひこうきの楽しさや飛びぶものの原理を知ることができてとてもよかったです。本当にテュア一先生に出会えてよかったです。キッズワークショップでは、僕が作った紙ひこうきを見て、「同じのが作りたい」と言ってくれる男の子がいました。すごくうれしくて、緊張したけど一生懸命教えることができました。

30



31

29

紙ひこうきの楽しさや飛びぶものの原理を知ることができてとてもよかったです。本当にテュア一先生に出会えてよかったです。キッズワークショップでは、僕が作った紙ひこうきを見て、「同じのが作りたい」と言ってくれる男の子がいました。すごくうれしくて、緊張したけど一生懸命教えることができました。

30